広島大学　学部・附属学校共同研究機構研究紀要
〈第45号　2017.3〉

幼小中12年間で系統的に育む図工・美術の資質・能力の研究

―アクティブ・ラーニングによる鑑賞授業を通して―

松崎　伸一　　松本　裕子　　内田　雅三　　中村　和世

１．問題の所在と研究の目的

次期学習指導要領改訂に向け，中央教育審議会教育課程企画特別部会において「論点整理」がまとめられ，各教科等において身につける資質・能力は，「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の３つの柱に整理された[1)]。そして，それぞれの教科の本質に根ざした「見方・考え方」を働かせながら，子どもたちに社会を多面的にとらえる力をつけていくことが必要だとされている。

広島大学附属三原学校園においても，社会的自立の基礎となる資質・能力を「キャリアプランニング能力」「人間関係形成・社会形成能力」「課題解決能力」に焦点化した。また，それらは，全教育課程で育成すべき「通教科的能力」であると位置づけ，幼小中の12年間をかけて育む取り組みをしている。具体的には，学校園全体として，幼稚園の年少・年中を入門期，年長・小学校１・２年生を幼小接続期，３・４年生を中間期，５・６・７年生（中学校１年生）を小中接続期，８・９年生（中学校２・３年生）を最終期とする５つの学年区分を設定している。そして図画工作・美術科においても，学年区分ごとに３つの資質･能力が育まれた姿を系統的に整理した(表１)。しかし，整理した系統表が子どもの実態に照らして適正と言えるのかについては，実践を通して検証する必要がある。そこで，系統表に示した各学年区分の資質・能力が育まれた姿が妥当であるか，授業実践を通して検証・改善することを目的として本研究を進めることとした。

２．研究の方法

本研究の対象は，本学校園の学年区分を踏まえ，幼稚園の入門期を除く各学年区分の最上級学年である２・４・７（中１）・９（中３）年生の子どもとした。また，対象領域を「鑑賞」とし，検証する資質・能力の系統については，鑑賞の能力とかかわりの深い「造形活動において，自分の価値意識をもって批評し合い，新しい価値を創り出したり他者との関係を深めたりする力」(人間関係形成・社会形成能力と関連）に焦点化する。そして，育成をめざす資質・能力が実践の中で育まれたかどうかを各学年の子どもの姿をもとに比較・分析し，指導内容や系統の適正について検証する。なお，鑑賞する作品は，全学年，共通とし，同一作品に対する，学年別の特徴を比較する。小学校は45分間，中学校は50分間で授業を行い，1時間を前半，後半に分けて，２種類の作品（図１・２）について対話型による鑑賞授業を実施する。教師側の一方的な講義形式ではなく，一つの作品をもとに個人が考えを出し合い，集団で考えていく対話による鑑賞授業における学びを実施する。

３．検証方法

検証方法は，授業中の観察記録の内容分析と,ポートフォリオの内容分析を中心に行う。表１の「人間関係形成・社会形成能力」に示した評価規準から，「価値創生力」「批評力」「関係形成力」の３つのキーワードを抽出した。各実践における児童生徒の発言内容，鑑賞の視点，深め合う過程などについて，３つの力に照らし合わせながら，学年区分による違いや特徴を整理する。

Shinichi Matsuzaki，Hiroko Matsumoto，Masazou Uchida，Kazuyo Nakamura：Study on the qualities and abilities of art and crafts that systematically grow in 12 years of childhood－Through an appreciation class by the active learning －

４．鑑賞作品の選定について

今回，鑑賞に使用した共通作品の選定についての留意点は，次の点である。

①具象作品と抽象作品

今回の授業においては，対象の子どもが小学校２年生から中学校３年生と年齢的に幅広い構成となっている。具象作品は具体的なものが描かれているので，生活経験の浅い小学校低学年でも，そこから様々な様子や関係性を想像することができ，これまでの生活経験をもとに考えたことや思いついたことが話せ，交流ができると考えた。

抽象作品については，具象作品に比べ描かれているものがはっきりしない中で，子どもたちも何に着目しながら作品を見ていくのかを考察することができると考えた。

②色や形から想像することができるもの

具象にしても抽象にしても，色や形を手がかりに対話が広がると考えた。子どもたちの生活経験から，それぞれの色のもつイメージや形から想像できるものが子どもにあり，色や形が豊かにあることが大切であると考えた。

①，②の留意点を考慮しながら，次の２作品を選択した。

作品Ａ『私と村』（1991 年，油彩）（図１）
シャガール（Marc Chagall，1887－1985）

この作品は，色彩が豊かで，色から様々な気持ちや様子が想像できると考えた。また，描かれているものが実在する動物やものが多く，子どもたちが，自分の生活経験から様々なことを語ることができると考え,選択した。

作品Ｂ『ルツェルン近くの公園』（1938 年，油彩）（図２）クレー（Paul Klee，1879－1940）

この作品は，黒い線とそれを縁取る様々な色で描かれている。具体的なものが描かれておらず，Ａに比べ形や色をもとに想像していく要素が必要となる作品である。黒い線は，様々な見方ができ，人間や植物などにもとらえることができるし，何かの意味を表す線にもとらえることができると考えた。また，色も豊かで，具体物としてとらえきれない部分を，色をもとに想像を広げながら鑑賞することができると考えた。

図１　作品Ａ

図２　作品Ｂ

５．授業の流れ

対話による鑑賞授業[2)]の方法を参考にしながら，授業の流れとして全学年に共通して取り組んだことは次の点である。

①授業１時間（小学校 45 分，中学校 50 分）の中でＡ，Ｂの順番で鑑賞する。

②クラス全員で１作品ずつ鑑賞する。

③作品に描かれているものを話したり，自分が思ったことや感じたことを根拠をもって説明したりする。

④作者や作品名についての情報は，基本的には子どもに知らせないが，指導上，効果が得られると判断した場合は，情報を伝えることもある。

⑤授業で十分に発言できなかった子どもの思いや，言い足りなかった子どもの思いを聞くために授業後の感想を書く。

表１　通教科的能力と関連的に育む図画工作・美術科の本質に根ざした資質・能力系統表

通教科的能力		人間関係形成・社会形成能力	キャリアプランニング能力	課題対応能力
教科の本質に根ざした資質・能力		造形活動において，自分の価値意識をもって批評し合い，新しい価値を創り出したり他者との関係を深めたりする力	造形活動を通して，新しい可能性をイメージする力	表したいことのもとに思考・判断・表現する，創造的な問題解決力
学年区分	入門期 年少 年中	描いたり作ったりしたときに感じたことについて友だちとお話することが楽しいと感じることができる。	自分や周りのものを楽しく描いたり作ったりするプロセスにおいて，形や色などに意味づけをすることができる。	①　驚いたり，不思議に思ったことを繰り返しやってみたりすることができる。 ②③思いの実現に向けて，自分なりに考えたり試したりして，描いたり作ったりすることができる，
	幼小接続期 年長 １年 ２年	感じたことを話したり，友だちの話を聞いたりするなどして，形や色，表し方，材料の感じなどのよさや面白さに気づくことができる。	自分や周りのものを描いたり作ったりするプロセスにおいて，自分のイメージを広げることができる。	①　体全体の感覚や技能などを働かせながら思いつき，制作や活動をすることができる。 ②③表したいものを見つけ，表し方を考えて表現することができる。
	中間期 ３年 ４年	感じたことや考えたことを友だちと話し合うことを通して，形や色，表し方や材料の感じの違いなどを見つけることができる。	造形活動を通して，夢やあこがれなどの考え方を創り出すことができる。	②　手や体全体を十分に働かせ，材料などから豊かな発想をすることができる。 ①③表したいことや用途などを考えながら，計画を立て粘り強く表すことができる。
	小中接続期 ５年 ６年 ７年	友だちと作品などに対する思いや考えを話し合うことを通して,対象の見方や感じ方を広げることができる。	造形活動を通して，なりたい自分や身近な地域との関係に関する考え方を創り出すことができる。	②　主題を生み出すことができる。 ②　心豊かに表現する構想を練ることができる。 ①③制作の順序などを考えながら，見通しを持って粘り強く創造的に表現することができる。
	最終期 ８年 ９年	作品などの主題設定・追求を通して自分の価値意識をもたせ，異なった見方や考え方を尊重しながら，批評し合うことを通して，自分の中に新しい価値（豊かな情操）を創り出したり，他者との結びつきを深めたりすることができる。	造形活動を通して自分の生き方や社会とのかかわり方に関する考え方を創り出すことができる。	②　主題を生み出すことができる。 ②　自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして構想を練ることができる。 ①③粘り強く技法・技術を習得しながら創造的に粘り強く表現することができる。
学習指導要領に基づく評価の観点との関連		鑑賞の能力	美術への関心・意欲・態度	①美術への関心・意欲・態度 ②発想・構想の能力 ③創造的な技能

６．授業の実際

実践事例Ⅰ

①学年　第２学年　31名

②実施日　平成28年12月14日

③目指す学年区分の姿

> 感じたことを話したり，友だちの話を聞いたりするなどして，形や色，表し方，材料の感じなどのよさや面白さに気づくことができる。

④授業の実際（図３）

作品Ａの鑑賞

○２年生の対話の特徴

・見たものをそのまま話す。

・見たものを手掛かりに，自分の想像を膨らませ，自由に話している。

・作品の主題に迫るような発言には広がりにくい。

○実際の対話（一部抜粋）

> Ｔ　：どんなものを見つけた？
> Ｐ１：緑の顔の巨人がいる。
> Ｐ２：動物の神と人間の神が一緒にいる。左が動物の神，右が人間の神です。
> Ｔ　：どこからそう思ったの？
> Ｐ２：ヤギみたいなのが○○からです。
> Ｐ３：ヤギだからといって神とは限らないと思います。
> Ｔ　：それに関わって何かありますか？
> Ｐ４：どちらもネックレスをしていて，これは神がやっているようなことだから神様だと思います。
> Ｐ５：ヒツジを神と思ったのは，体がカラフルで，顔も○○だからです。ネックレスもいろんな色だから。
> Ｐ６：ネックレスに十字架があるから。
> Ｔ　：十字架があれば神なの？
> Ｐ６：うん。
> Ｐ７：馬と人間の巨人が結婚している。
> Ｔ　：どこからそう思いましたか？
> Ｐ７：指輪をもって，花も持っているから。
> Ｐ８：ネックレスだけじゃなくて，小屋の上にも十字架があるよ。
> Ｔ　：見つけたことだけじゃなくて，感じたことや思ったことも言ってくれる？
> Ｐ９：いろんな色があるから不思議な世界だと思う。

作品Ｂの鑑賞

○２年生の対話の特徴

・色に注目し，色は実際にある具体物を連想していた。（ピンク→桜，水色→池）が，色のもつ感じや，心情的なイメージは出てこなかった。

・黒い線は，文字や人間や道としてとらえた。

・友だちの発言を聞いて共感し，付け加えて自分の考えを発言していた。

○実際の対話（一部抜粋）

> Ｔ　：いろんな色があるね。誰か色について話ができるかな？
> P10：右下のピンクは桜に見えます。
> P11：左下はおにぎりに見える。
> P12：左下のピンクと黄色の門の水色は排水溝。
> Ｔ　：やっぱりここはどこかの場所なんだ。
> P13：私は桜に見えます。右と左のあれは桜です。
> P14：真ん中の木はりんごがある。
> P15：僕は滝に見える。
> P16：下の黄色の木の横にあるのは，赤いコートを着た人に見えます。
> P17：丸いのは頭で，棒人間がいる。
> P18：赤の木はイチゴ。オレンジ色はオレンジ。果物の国の地図に見えた。

⑤成果（◎）と課題（●）

◎「感じたことを話す，友だちの話を聞く姿」は見て取ることができた。

◎形や色，表し方のよさや面白さへの気づきも見られた。

◎対話的な鑑賞を通して，相手のことを考えたり，相手を認めたりする様子もうかがえた。

◎授業後の感想から，友だちの考えを聞いて，なるほどと思って自分の考えが広がったというものもあった。

◎初めは見方が分からなかった子どもも，みんなの意見を聞くことによって，自分の見方が生まれ，自信をもって自分の考えを言うことができた。「いろんな見方が頭に浮かぶことができるようになった自分がうれしい」という感想も見られた。

●多くの子は発言できたが全員発言をすることができなかった。

実践事例Ⅱ
①学年　第４学年　32名
②実施日　平成29年1月17日
③目指す学年区分の姿

感じたことや考えたことを友だちと話し合うことを通して，形や色，表し方や材料の感じの違いなどを見つけることができる。

④授業の実際（図４）

作品Ａの鑑賞

○４年生の対話の特徴
・知識として知っている美術用語が出てきた。（「遠近法」など）
・「気持ち悪い」「あたたかい」「怖い」など絵全体から受ける印象を表す表現もみられた。
・明るい色から，「やさしくていい人」というイメージが生まれるなど，色のもつイメージを手がかりに想像することもあった。
・怖いという初めの感想から，友だちの考えを聞いて明るさや楽しさも発見することができていた子どもが多かった。

○実際の対話（一部抜粋）

Ｐ１：全体的に気持ち悪い。
Ｔ　：どこでそう思いましたか？
Ｐ１：目や唇が白いから。
Ｔ　：気持ち悪いと感じる人はいますか？
Ｐ２：教会の所に人の首みたいなのがある。
Ｐ３：遠近法を使っているけど，おかしいところがある。
Ｐ４：首にキリスト教のものがあります。
Ｐ５：この緑の人間の顎からくぼみからヤギまで円でつながっている。
・・・・・・・・・・・・・
Ｐ６：顎から太陽の光を出している。あまり悪い人じゃない。
Ｔ　：この絵は，あたたかい場面だと感じた人？
Ｐ７：緑のおじいさんのところ，赤くて，ヤギは白くて，紅白で明るい感じがする。
Ｔ　：じゃあ，この絵は怖い場面だと感じた人？
Ｐ８：男の人が鎌をもって殺そうとしているから。

作品Ｂの鑑賞

○４年生の対話の特徴
・黒い線は形から具体物を，まわりの色は，その色をもつ具体物を連想し，色や形のもつイメージから心情的な様子は見取れていなかった。
・周りの色は黒を引き立たせるためであるなど，技術的な発言も見られた。
・絵が途切れているのは，見る人に想像させるため」だと，作家の鑑賞者に対する意図について考えていた。
・色味を手がかりに「やわらかい色」ということを感じ，「やさしい感じ」ととらえていた。

○実際の対話（一部抜粋）

Ｐ９：先生，これ，絵なんですか？
P10：木の枝？全部。
P11：丸と棒だけで描いてある。
P12：枯れ木しかない砂漠。新しく木が生えたイメージ。
P13：枝を並べて影みたいにしてそのまま描いたような。
P14：アルファベットのＦ，Ｙ，Ｉも見える。
Ｔ　：形だけ見ているけど，色から何を感じる？
P15：全体的に明るい感じ。
P16：全体的に明るいのは，暗い色をあまり使ってないから。（黒い線はあるが）
P17：全部白を混ぜているのかな。やわらかい感じを出している。

⑤成果（◎）と課題（●）
◎絵に関心をもって，自分の考えを積極的に話したり，友だちの考えを受け入れて見方の幅を広げ，それを楽しんだりすることができた。
◎形や色から感情を読み取ろうとしている姿が見られた。
◎「絵を鑑賞すると，絵を描いた人の気持ちが少しだけ読み取れる気がして楽しい。」など，鑑賞を楽しむ感想が多くあった。
●多くの子は発言できたが，全員発言をすることができなかった。発言のなかった子どもでも，授業後の感想では自分の考えがしっかり書けていた。全員の場で発言ができるような発問や雰囲気づくりなどの手立てが必要であった。

実践事例　Ⅲ
①学年　第７学年　40名
②実施日　平成28年12月21日
③目指す学年区分の姿

友だちと作品などに対する思いや考えを話し合うことを通して，対象の見方や感じ方を広げることができる。

④授業の実際（図５）

作品Ａの鑑賞

○対話の特徴

・一人ひとりの意見を聞きながら，描かれたものや色彩をもとに，動物と人間の関係を導きだそうとする発言へと流れていった。

○実際の対話（一部抜粋）

P1：凄い。人間の顔の色も普通でないから，「もう，僕を止めることはできない。」と言っているようだ。
P2：これは，人の頭の中の記憶かもしれない。目からひもみたいなものが出ている。
Ｔ：よく気づいたね。どんなイメージを受ける？
Ｐ３：ヤギと人間の関係を表していると思う。
Ｐ４：通じ合っている感じがする。
Ｐ５：主従関係かな？
Ｐ６：ヤギと人間が同じ色のネックレスをしているから，同じ目線じゃないかな。
Ｐ７：人の目が，白色。「自然や動物を大切に」とヤギに洗脳ビームを受けているのでは？
Ｐ８：ヤギと人間の関係に上の町並みは関係しているのかも。家がネックレスの色と合っているから
Ｐ９：人のしわとヤギのしわとが円を作っているから，仲が良いことを表しているのでは。
P10：わたしは，「自然や動物を大事にしろ」と言っているように見える。
P11：人の目のところ，赤と白，地球の昼と夜。地球から見た太陽，月は分からないけど，上にいくほど地球上のこと，下にいくほど宇宙っぽくなっている。
P12：人間と動物や自然は良好な関係で，さらにそれを深めようとしている。また，宇宙感まで言おうとしているのでは？

作品Ｂの鑑賞

○対話の特徴

「模様」「文字」「意味のない形」等のとらえに始まり，「木」「火事」「季節の移り変わり」など意味をもたせた発言に流れた。自然だととらえた生徒は，季節のとらえについて交流した。また，道，人生というイメージに広がった生徒もいた。

○実際の対話（一部抜粋）

P1：落書き
Ｐ２：日本語・英語・文字
Ｐ３：適当
Ｐ４：精神的に不安定な人の絵ではないか。
Ｐ５：夢の中，人の頭の中。
Ｐ６：自然のなかのようだ，柔らかくて緑がたくさんあるように感じる。
Ｐ７：山火事，:燃えているイメージ。
Ｔ：自然に見える人は（10人程度が挙手）季節は？
Ｐ８：冬・白が使われている。
Ｐ９：全部，四季を表している。
P10：背景が冬から春になる感じ。
P11：秋・紅葉している。
P12：木のエネルギーを感じる。
P13：道だと思う。行き止まり。
P14：人生の道？ぼくらはたどり着いていない波瀾万丈な世界。

⑤成果（◎）と課題（●）

◎事後の振り返りに，作品Ａ・Ｂの感想と，鑑賞会への感想を書かせたところ，全員が感想を書くことができていた。また，「1枚の絵からみんなが違う意見を出していて，その意見を聞きながら，一人ひとりの見方や感じ取り方には違いがあるから，全体で鑑賞するのはおもしろいなと思いました。」等，対話鑑賞を楽しめた記述が多かった。

●半数の生徒が１回以上発表したが，一部の生徒に発言が偏った。８人の生徒が，「なにも言えなかった自分が悔しいです。」「もう一回やりたい。このような鑑賞会を通して，もっと意見を出し合えるようになりたいです。」等，積極的に発言できるようになりたいという感想を書いていた。

●「作品の題名を聞いて絵を見ると初めと見え方が違った。」「なぜ，あんな色を使っていたのか知りたい。」と記述した生徒が，３名おり，７年生においては，作品についてある程度の情報を提示する必要があると考える。

実践事例　Ⅳ
①学年　第９学年　35名
②実施日　平成28年12月20日
③目指す学年区分の姿

作品などの主題設定・追求を通して自分の価値意識をもたせ，異なった見方や考え方を尊重しながら,批評し合うことを通して，自分の中に新しい価値（豊かな情操）を創り出したり，他者との結びつきを深めたりすることができる。

④授業の実際（図６）

作品Ａの鑑賞

○対話の特徴

はじめは，描かれている色や形をもとにイメージを語っていたが，やがて２人の関係についての推理に変わり，最後には，絵の上下を逆にすることで，再び画面全体へ目を向けとらえようとする姿が見られた。

○実際の対話（一部抜粋）

Ｐ１：補色の効果で，カラフルな色が目に飛び込んでくる。
Ｐ２：緑の人が気持ち悪い。真ん中が○でつながっているように描かれている。
Ｐ３：ヤギと人間の出会いが描かれている。
Ｐ４:家がひっくりかえり,人の顔も見える。
Ｐ５：十字架があるからキリスト教かな。
Ｐ６：死神みたいな男と亡くなった女性，死神が亡くなった人を迎えにきたのかな。
Ｐ７：ヤギの下で女性が乳搾り。
Ｐ８：視線が線でつながり合っている。
Ｐ９：ヤギのネックレスは人間とお揃い。ペアルックで，恋人同士ではないか。緑は男，ヤギは，女性を表現しているのではないか。
P10：木は何かを育んでいるのでは？
P11：上と下，世界が違って，木は２つの世界をつなぐ役割があるのではないか。
P10:祈っているように見える。木を持って。それが，葉っぱ，食べ物，命を生み出しているようにも見える。
Ｔ：さあ，みんなどんな物語が見えてきたかな？
P12～：プロポーズ，不安（数名）優しさ・愛（数名）心が通じ合っている
P13:先生,上下反対にして見せてください。（少し興味が薄らいでいた生徒も，また興味をもって見始める）
P14：男の人のほうれい線がすごいのは，笑っているからではないか。女性は走っている。死んでたおれているのではない。
P15：真ん中あたりに月も見えてきた。

作品Ｂの鑑賞

○対話の特徴

はじめは，何かに見立て，次に絵から感じる季節やメッセージについて理由を伴って発表し合った。

○実際の対話（一部抜粋）

Ｐ１：動物。うさぎに見える。
Ｐ２：植物。木に見える。
Ｐ３：ご飯のふりかけに見える。
Ｐ４：自然に見える。
Ｔ　：自然と言ってくれたい人，季節は？
Ｐ５：秋
Ｐ６：秋から冬
Ｔ　：どんなメッセージを受け止めたかな？
Ｐ７：青とか緑とか不規則に並んでいるので，規則的ではなく不規則を重視しようというメッセージ。
Ｐ８：黒が木の枝，周りのカラフルな色が紅葉の色，秋から冬に移行する時の作者の寂しい気持ちを表現しているのではないかな。
Ｐ９：黒の線の周りに色がある。それが全部つながっているから，いろんな形で，命はつながっているよと言っているのではないか。

⑤成果（◎）と課題（●）

◎事後の振り返りに，作品Ａ・Ｂの感想と，鑑賞会への感想を書かせたところ，全員が感想を書いていた。ほとんどが,「１枚の絵も見る人によってとらえ方が違って作者の思いを想像しながら見るのはおもしろいと感じた。」等の肯定的な意見であった。

◎絵だけを見て，それぞれの感性や，独自の視点で感想を交流することができ，新鮮な感覚を持つことができていた。

◎２枚の異なる絵を見たことにより，多様な表現のおもしろさに気づき，また見てみたいと鑑賞への意欲を高めた生徒もいた。

●３人の生徒は,「やはり芸術はむずかしい。」「理解できない。」「日本の絵の方がわかりやすくて好きだ。」と感想を書いていた。

●納得できる意見もあれば，よく分からない意見もあったのに聞き流している生徒もいた。根拠をもって説明したり，質問したりする関係づくりが必要である。

●題名を聞いてさらに発想を広げた生徒や，絵に関する解説をしてほしいと言った生徒もおり，９年生もある程度の情報を与えることが，見方をさらに広げることにつながるのではないかと感じた。

７．成果と課題

表１の「造形活動において，自分の価値意識をもって批評し合い，新しい価値を創り出したり他者との関係を深めたりする力 」から,「価値創生力」「批評力」「関係形成力」の３つのキーワードを抽出した。そして各実践における児童生徒の発言内容，鑑賞の視点，深め合う過程などについて，３つの力に照らし合わせながら，学年区分による違いや特徴の整理を試みた（表２）。

(1)「価値創生力」について

２年生は，見つけたものから想像したことやお話を考えて話す児童が多かったが，中には形や色，表し方のよさや面白さへの気づきも見られた。しかし，主題や心情的なイメージに迫る発言は少なく，作者の思いや意図を探るような思考は見られなかった。4年生は，色のもつイメージをもとに，作品のもつ感じやよさを見つけることができていた。７年生は，描かれている物からだけでなく，自分たちの周りにある社会の状況（環境問題など）を手掛かりに作品のテーマや，作家からのメッセージを発想したり，季節の節目の繊細な変化と重ねて作品の良さを説明したりしていた。９年生は，みんなが出し合ったことを統合して，主題を見つけることを楽しむ様子が見られたり，鑑賞を終え，題名を聞いた後にさらに発想を広げたりすることができていた。また，事後の感想には，今回提示した２枚の絵のスタイルの違いに興味をもち，自分でも鑑賞する機会を増やしたいと思うようになった生徒もいた。

学年が上がるにつれ，個人のとらえだけでなく，他者の考えともつなぎながら，作品の良さやメッセージを見つけようとしたり，その活動を楽しんだりしていることが分かった。これらのことをふまえ，ワークシートの工夫などによる鑑賞の各段階における個々の考えを振り返られるような準備も，効果的ではないかと考える。また，中学生には，想像することを楽しむ生徒と，途中から題名，背景等の追加情報を得たいと考える生徒もいたことから，与える情報の内容やタイミングについての吟味が必要であると考える。

（２）批評力について

２年生では，個々の児童が自由に自分の考えを述べ,はっきりとした関連発言はあまり出ていなかった。４年生では，関連発言や質問があり，友だちの意見との共通点や相違点を示しながら自分の意見を言おうとしている姿が見られた。また,「遠近法」や「黒色の効果」などを根拠に説得力のある説明をする子どももいた。７・８年生でも同様の発言が見られ,「色の感情」「色の三要素」「色の調子」「構図」などの既習の用語を用いて説明することができていた。しかし，９年生の振り返りからは,「納得できる意見もあれば，よく分からない意見もあった。」と，理解できない意見を聞き流している生徒もいたことが分かった。論理的な思考による批評力を育てるためにも，教科固有の言語として，造形要素に係る用語や，鑑賞の視点についても整理してとらえ，系統的に指導していく必要があると感じた。

（３）関係形成力について

２年生では,時間いっぱい発言が途切れず,自分の意見を自由に発言することを楽しむ姿が見られた。４・７・９年生では，友だちの考えを受け入れて見方の幅を広げ，それを楽しむ様子が見られた。特に９年生では，ほとんどの生徒が自分には思いつかないような友だちの発想を知って驚いたことや，このような機会を大切にしたいと事後の振り返りに書いていた。美術を通して，友だちの見方や考え方の良さを知ることで，友だちの理解を深めることができたのではないかと考える。

反面，初めての試みであったため，７年生では，感想はもっていても，積極的に発言できなかったことを残念に思い，次は，自分の意見を述べてみたいという感想をもった生徒も複数いた。次の機会を設定し，見通しをもたせることも必要であると感じた。

また，今回は，全体での対話型鑑賞であったため，９年では，小グループでの話し合いを求める声もあり，全体，小グループ等バランスよく学習形態を工夫する必要がある。

表２ 各実践における資質･能力の育成状況の整理

学年区分 ＼ 資質・能力		造形活動において，自分の価値意識をもって批評し合い，新しい価値を創り出したり他者との関係を深めたりする力（人間関係形成・社会形成能力と関連）			
		資質･能力が育成された姿	価値創生力	批評力	関係形成力
	幼小接続期 年長1年2年	感じたことを話したり，友だちの話を聞いたりするなどして，形や色，表し方，材料の感じなどのよさや面白さに気づくことができる。	○色や形に着目し，それらを手掛かりに，自分の想像した具体物を自由に話すことができていた。（ピンク→桜，水色→池など） ○形や色，表し方のよさや面白さに気づく子どももいた。 ●主題や心情的なイメージに迫る発言はなかった。	○自分の思いを自由に発言することができていた。 ●友だちの考えに対する疑問を投げかける発言が少なく，自分の考えを言うことが中心になる場面が多かった。	○友だちの発言を聞いて共感し，付け加えて自分の考えを発言できていた。
	中間期 3年4年	感じたことや考えたことを友だちと話し合うことを通して，形や色，表し方や材料の感じの違いなどを見つけることができる。	○色のもつ感覚から「気持ち悪い」「あたたかい」「怖い」などの印象が語られたり，明るい色だから「やさしくていい人」などイメージが語られたりしていた。	○作家の意図を推測する子どもがいた。 ○「遠近法」という用語や色の効果等を根拠に説明する子どもがいた。	○友だちの考えを受け入れて見方の幅を広げたり，それを楽しんだりすることができていた。 ●感想には自分の思いが書けたが，授業中の発言は少なかった。
	小中接続期 5年6年7年	友だちと作品などに対する思いや考えを話し合うことを通して,対象の見方や感じ方を広げることができる。	○描かれている物を手掛かりにして，作品のテーマや，作家からのメッセージを予想することで，見方や感じ方を広げることができていた。 ●自分の興味のある世界になぞらえて想像することに執着している生徒もいた。	○個々の感じ方の違いを，肯定的に受け止めながら，自分の意見を出し合っていた。 ●友だちの意見に対する質問や批評をする生徒はほとんどいなかった。	○2/3の生徒が発言し，クラスみんなでテーマやメッセージを探すことを楽しむことができていた。 ●自分の意見を発表しなかったことを事後に反省している生徒が数名いた。
	最終期 8年9年	作品などの主題設定･追求を通して自分の価値意識をもたせ，異なった見方や考え方を尊重しながら，批評し合うことを通して，自分の中に新しい価値（豊かな情操）を創り出したり，他者との結びつきを深めたりすることができる。	○描かれている物を統合して，主題を見つけようとしたり，題名を聞いてさらに発想を広げたりすることができていた。 ○２枚の絵のスタイルの違いに興味をもち鑑賞を広げたいと考える生徒もいた。 ▲鑑賞の後半は，題名や作者名等の情報をもとに，想像を広げたがる生徒が数名いた。	○感想の根拠として，色や形とそのイメージに関する発言を熱心に聞くことができていた。 ○絵の上下を逆にするなど，見方を工夫して，常に描かれたものを根拠に推理することを大切にし合っていた。 ●納得できる意見もあれば，よく分からない意見もあったのに聞き流してしまったという生徒もいた。	○多くの生徒が積極的に発言し，事後の感想からは，自分は思いつかないような友だちの見方や考え方に驚き，鑑賞を楽しいと感じることができていた。 ▲小グループでの意見交流をしたがる生徒もいた。

図３　２年生の授業の様子

図４　４年生の授業の様子

図５　７年生の授業の様子

図６　９年生の授業の様子

８.おわりに

本研究においては，「作家による美術作品としての絵画」を鑑賞することを通して，「造形活動において，自分の価値意識をもって批評し合い，新しい価値を創り出したり他者との関係を深めたりする力」（人間関係形成・社会形成能力と関連）の育成状況に係る検証を試みた。

今回は対話による鑑賞授業を行ったが，４つの学年とも，子どもたちの作品を真剣に見つめる様子や友だちとかかわり，楽しみながら見方・感じ方を広げ深める様子を見ることができた。（図３・図４・図５・図６）

今回の授業実践を通して，上記の資質・能力からキーワードとして抽出した「価値創生力」「批評力」「関係形成力」に係る姿を全学年において見出すことができたことから，系統表（表１）に設定した学年区分別の目指す姿については，概ね適切であったと考える。

図画工作・美術科の授業において，鑑賞の対象は様々である。本授業実践を通して，明らかになった学年区分の特徴を，今後のパフォーマンス課題やルーブリック評価に取り入れることで，より適切な教師の見とりを目指していきたい。また子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」につなげる目標設定の視点としても今後活用していきたい。

引用（参考）文献

１）文部科学省初等中等教育局教育課程課：「初等教育資料12月号」，p.28，2016，東洋館出版社.

２）上野行一・奥村高明（2008）『モナリザは怒っている！？』淡交社

要　　約

幼小中12年間で系統的に育む図工・美術の資質・能力の研究
―アクティブ・ラーニングによる鑑賞授業を通して―

本研究の目的は，アクティブ・ラーニングによる図工・美術科の鑑賞授業を通して，本学校園で育みたい資質・能力のうち，「人間関係形成・社会形成能力」と関連する美術科の本質に根ざした資質・能力が，学年区分ごとについているか明らかにすることである。研究の方法は，小学校２，４年生，中学校１，３年生の子どもに対し共通作品をもとに対話型による鑑賞授業を実施し，授業における子どもの姿を分析し，指導内容や系統の適正について検討する。研究の結果，図工・美術部会で設定した目指す姿に近い様子が見られ，概ね力がついていることが確認できた。今後は，本研究を通して見えてきた鑑賞における学年ごとの発言や思考の特徴を，より具体的な姿として系統表に取り入れ，指導方法とともに改善をしていきたい。

Study on the qualities and abilities of art and crafts that systematically grow in 12 years of childhood
－Through an appreciation class by the active learning－

The purpose of this study is to clarify whether the qualities and abilities it came from essence of the art department related with "forming human relationships and social development ability" is related to grade level among the qualities and abilities that we want to cultivate at this school through an appreciation class by active learning. In the method of research, we conducted interactive classes based on same works for children of elementary school 2nd, 4th graders, junior high school 1st, 3rd graders, analyzed the appearance of children. As a result, it seemed that it was close to the aim position set by the art group, and it was confirmed that there were abilities almost. In the future, I'd like to incorporate the features of each grade's remarks and thinking in viewing through this research into a systematic table as a more specific form, and improve along with the teaching method.